

開催報告

トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会 第7回 天王川自然再生ワーキンググループ



開催日：2016年4月20日(水)18:30~20:30

場所：トキ交流会館2階会議室

参加者：WGメンバー14名、傍聴5名

自然再生後の水辺の“維持管理のあり方”について議論をはじめました。

昨年6月から開催してきたWGでは、「天王川をどのように自然再生したいか」、「自然再生後の水辺をどのように利活用したいか」など計画・利活用の観点で話し合いを進めてきました。

今回からは、天王川を自然再生させた後の“維持管理のあり方”について議論を進めていきます。

効率的に維持管理していくにはどうすればよいか？そして、どのような枠組みで維持管理していくか？などについて議論を深めていきます。

今回は、水辺の維持管理に関する他県の先進事例をご紹介したうえで、グランドカバー系の植物の活用や湿地を田んぼのようにし、トラクターを用いることなるべく手間をかけずに維持管理できる方法について意見交換を行いました。



意見交換会での主なご質問やご意見

【他県の先進事例について】

- ・草刈り作業やゴミ拾いの後にカレーライスや流しそうめんなどを振る舞う例があったが、その費用はどこからでているのか？
⇒ 組織により様々かと思いますが、趣旨に賛同する企業からの協賛金などを用いているケースがあると聞いています。
- ・十勝川中流部市民協働会議では幅広く様々な活動をしているようですが、これも行政と一緒にやって取り組んでいるのか？
⇒ 国管理の河川ですので、国交省と一緒にPDCAサイクルを回しながら進めているようです。

【維持管理になるべく手間をかけない方法について】

- ・この地域を自然再生した際に、どんな植物が植生する可能性が高いのかデータを示してもらえると議論しやすくなるのではないかと？
⇒ 過去に天王川周辺の現状の植生を調べたデータはあるので、次回お示しします。
- ・湿地を田んぼのようにすることでトラクターにより楽に維持管理できるようにすることは否定しないが、環境の多様性の観点からすべての湿地をそのようにすると自然再生の大きな目標から外れるのではないかと？
⇒ 上流からの農業排水を有効に使うことで、水の流れる湿地も造れそうなのですべての湿地を田んぼのようにする必要はないと思います。環境の多様性についてはまったく同じ思いです。
- ・すべてのエリアで草刈りをする必要があるのか？むしろ草刈りしないところがあった方がよいと思うが。
⇒ どこを草刈りして、どこを草刈りしないかも含め、今後、このWGで議論を深めていきたいと思っています。

【今後の流れについて】

- ・6月に第8回WGを開催し、維持管理についてさらに議論を深めていきます。

天王川自然再生ワーキンググループの構成メンバー

- ◆ 地元集落：潟上集落、正明寺集落、田野沢集落
- ◆ 関係団体：佐渡生きもの語り研究所、トキどき応援団、潟上水辺の会、加茂湖漁業協同組合、佐渡島加茂湖水系再生研究所、生樁の自然を守る会
- ◆ 学校関係：伝統文化と環境福祉の専門学校、佐渡市立行谷小学校
- ◆ 行政機関：環境省佐渡自然保護官事務所
- ◇ 事務局：佐渡地域振興局地域整備部、佐渡市役所建設課、佐渡市役所農林水産課

問い合わせ先 新潟県 佐渡地域振興局地域整備部 担当) 計画調整課 水倉、藤澤

TEL : 0259-74-4040 FAX : 0259-74-2048 Email : fujisawa.masamichi@pref.niigata.lg.jp